



2022年9月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月14日

上場会社名 株式会社インタートレード 上場取引所 東
 コード番号 3747 URL <https://www.itrade.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西本 一也
 問合せ先責任者 (役職名) 業務執行役員 (氏名) 小笠原 功二 (TEL) 03-4540-3002
 定時株主総会開催予定日 2022年12月23日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2022年12月23日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (動画配信)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期の連結業績 (2021年10月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期	2,056	△4.7	241	9.8	62	179.9	173	△13.9
2021年9月期	2,157	△1.7	219	—	22	—	201	297.9

(注) 包括利益 2022年9月期 178百万円(△13.2%) 2021年9月期 205百万円(—%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年9月期	24.15	—	14.5	4.1	11.7
2021年9月期	28.05	—	20.0	1.6	10.2

(参考) 持分法投資損益 2022年9月期 △177百万円 2021年9月期 △199百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年9月期	1,609	1,294	79.7	178.49
2021年9月期	1,452	1,115	76.4	154.34

(参考) 自己資本 2022年9月期 1,282百万円 2021年9月期 1,109百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年9月期	270	△11	△10	857
2021年9月期	221	△28	△110	608

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 2023年9月期の連結業績予想 (2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり当期純 利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	2,300	11.8	220	△8.8	50	△20.2	35	△79.8	4.87

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
新規 社（社名）－ 、除外 社（社名）－ : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年9月期	7,444,800株	2021年9月期	7,444,800株
② 期末自己株式数	2022年9月期	259,200株	2021年9月期	259,200株
③ 期中平均株式数	2022年9月期	7,185,600株	2021年9月期	7,185,600株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当社グループの事業セグメントは、証券ディーリングシステム、外国為替証拠金取引システム、取引所外取引システム等の開発及び保守を中心とする「金融ソリューション事業」、ITサポート及びグループ経営管理ソリューションシステムの開発及び販売を中心とする「ビジネスソリューション事業」、機能性食材であるハナピラタケの健康食品や化粧品等の開発及び販売を行う「ヘルスケア事業」の3つです。

当連結会計年度の当社グループの連結経営成績は次の表のとおりです。

	2021年9月期 (前連結会計年度)		2022年9月期 (当連結会計年度)		対前年度比 (%)
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	
売上高	2,157	100.0	2,056	100.0	95.3
金融ソリューション事業	1,759	81.5	1,646	80.1	93.6
ビジネスソリューション事業	267	12.4	277	13.5	103.8
ヘルスケア事業	130	6.1	132	6.4	101.4
営業利益	219	—	241	—	109.8
親会社株主に帰属する当期純利益	201	—	173	—	86.1

(注) 各事業の売上高は、セグメント間の内部取引を含んでおりません。

当連結会計年度における国内経済は、ウィズコロナの新たな段階への移行が進む中で、経済活動の再開への機運が高まっているものの、ウクライナ情勢に対する懸念が世界の株式市場に影を落とし不安定さが増しているため、依然として景気の先行きが不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中で、当連結会計年度の業績は、売上面では主力の金融ソリューション事業で減収となり、ビジネスソリューション事業及びヘルスケア事業で増収となったものの、連結売上高に占める金融ソリューション事業の比率が高いため、連結売上高は前年度に比べ100百万円減少し2,056百万円となりました。また損益面は、売上原価の低減に努めた結果、前年度に比べ改善し営業利益は241百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、持分法適用関連会社である株式会社デジタルアセットマーケットツ(以下、デジタルアセットマーケットツ)における持分変動利益の計上額が前年度より減少したため173百万円となりました。

当社の主力市場である証券システム分野においては、世界でも新技術を使った金融サービスが広がっている中で、『Spider Digital Transfer』を通じて新たな成長領域を開拓し、ビジネス機会を提供してまいります。

セグメント別の経営成績は以下のとおりです。

なお、各事業の売上高には、セグメント間の内部取引を含んでおりません。

(金融ソリューション事業)

金融ソリューション事業は、当社の事業です。

当連結会計年度の経営成績は次のとおりです。

売上高 1,646百万円 (前年度比 93.6%)

セグメント利益 561百万円 (前年度比 94.0%)

金融ソリューション事業では、新規受託案件が前年度に比べ減少しましたが、月額による定期収入であるソフトウェア保守売上及びライセンス利用料等の増加により、安定した収益基盤を築いており、売上高は前年度に比べ6.4%減少の1,646百万円、セグメント利益は前年度より6.0%減少の561百万円となりました。

デジタルアセットマーケットツが目指す、web3.0時代の新たな金融プラットフォームの構築に引き続きシステム面で支えていきます。FinTechにより、これまでの縦割りのサービス展開から、非金融分野へと横断的なサービス展開ができる可能性を秘めており、金融ソリューション事業の事業領域も広がりを見せております。この流れをビジネスチャンスと捉え、更なる拡大を目指してまいります。

(ビジネスソリューション事業)

ビジネスソリューション事業は、当社及び株式会社ビーエス・ジェイの事業です。

当連結会計年度の経営成績は次のとおりです。

売上高	277百万円 (前年度比 103.8%)
セグメント利益	22百万円 (前年度比 182.4%)

当連結会計年度においては、経済活動の再開の兆しが見え受注環境が改善したことにより、増収増益となりました。売上高は前年度比103.8%の277百万円、セグメント利益は、増収の影響により前年度比182.4%の22百万円となりました。

ビジネスソリューション事業は5期連続の黒字を達成しており、引き続き、経営統合管理プラットフォーム『GroupMAN@IT e2』の新規導入や追加開発案件を中心に安定した収益基盤を構築していきます。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業は、当社及び株式会社インタートレードヘルスケアの事業です。

当連結会計年度の経営成績は次のとおりです。

売上高	132百万円 (前年度比 101.4%)
セグメント損失	51百万円 (前年度は84百万円のセグメント損失)

当連結会計年度においては、売上高は前年度比101.4%の132百万円となりました。損益面においては、棚卸資産における評価減の対象品目が減少し自社製品による売上構成比の改善に伴い粗利益が増加したこと、また固定費の削減に努めた結果、セグメント損失は51百万円となり、前年度より32百万円改善しました。

機能性表示食品の取得に向けて準備を進めており、2023年9月期中の取得を目指しております。機能性表示食品の取得により『ITはなびらたけ』の機能性を表記することにより、消費者により訴求力の高い商品展開を進めてまいります。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の総資産額(負債純資産合計額)は、前連結会計年度末に比べ157百万円増加し、1,609百万円となりました。自己資本比率は79.7%、当座比率(当座資産÷流動負債、短期的安全性の指標)は384.8%となっています。

(資産)

資産合計1,609百万円の主な内訳は、現金及び預金857百万円(構成比53.3%)、受取手形、売掛金及び契約資産280百万円(構成比17.4%)、棚卸資産(商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品)23百万円(構成比1.5%)、投資有価証券202百万円(構成比12.5%)となっています。

前連結会計年度末の資産合計1,452百万円より157百万円増加しており、その主な増減要因は、現金及び預金が248百万円増加しているものの、受取手形、売掛金及び契約資産が38百万円の減少、棚卸資産が25百万円減少していることによるものです。

(負債)

負債合計315百万円の主な内訳は、短期借入金100百万円(負債純資産合計に対する構成比6.2%)、買掛金67百万円(負債純資産合計に対する構成比4.2%)、未払法人税等28百万円(負債純資産合計に対する構成比1.8%)となっています。

前連結会計年度末の負債合計337百万円より21百万円減少しており、その主な増減要因は、買掛金の減少17百万円、未払法人税等の減少13百万円等によるものです。

(純資産)

純資産合計1,294百万円の内訳は、資本金1,478百万円、資本剰余金996百万円、利益剰余金△1,097百万円、自己株式△95百万円、非支配株主持分11百万円となっています。

前連結会計年度末の純資産合計1,115百万円より179百万円増加しており、その主な増減要因は、親会社株主に帰属する当期純利益の獲得による利益剰余金の増加173百万円によるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ248百万円増加し、857百万円となりました。各活動によるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、270百万円の収入（前連結会計年度は221百万円の収入）となりました。主な増加要因は、税金等調整前当期純利益217百万円、持分法による投資損失177百万円、売上債権の減少38百万円であり、主な減少要因は、持分変動利益154百万円、仕入債務の減少17百万円です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、11百万円の支出（前連結会計年度は28百万円の支出）となりました。主な増減要因は、長期前払費用の取得による支出5百万円、無形固定資産の取得による支出4百万円です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、10百万円の支出（前連結会計年度は110百万円の支出）となりました。主な増減要因は、リース債務の返済による支出10百万円等です。

	2018年9月期	2019年9月期	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期
自己資本比率 (%)	72.4	59.4	63.9	76.4	79.7
時価ベースの自己資本比率 (%)	154.6	571.6	268.1	291.9	191.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (倍)	—	—	—	0.6	0.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	—	—	—	120.3	214.4

（注）1 各指標の算出は以下の算式を使用しております。

- ・自己資本比率：自己資本／総資産
 - ・時価ベースの自己資本比率：期末株価による株式時価総額／総資産
 - ・キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー
 - ・インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い
- 2 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。
- 3 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。
- 4 2018年9月期、2019年9月期及び2020年9月期は、営業キャッシュ・フローがマイナスとなっておりますので、キャッシュ・フロー対有利子負債比率及びインタレスト・カバレッジ・レシオは記載しておりません。

（4）今後の見通し

2023年9月期は、新型コロナウイルス感染症の収束にはなお時間を要すると思われるものの、ワクチン接種の普及により経済活動は徐々に回復するものと期待されますが、不安定な世界情勢や円安、燃料や原材料価格の高騰を背景にした物価上昇により、経済の先行きは不透明な状況が続くものと予想されます。

このような状況下において、現時点での2023年9月期の見通しとしては、売上高2,300百万円、営業利益220百万円、経常利益50百万円、親会社株主に帰属する当期純利益35百万円を見込んでおります。

なお、すでに受注している案件や受注確度の高い案件に基づいて算出しておりますが、今後の先行き不透明な経済活動の影響で市場環境が頻繁に変化する状況であることも鑑み、業績予想の修正が必要であると判断した場合は改めて開示いたします。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間に比較可能性を考慮し、当面は日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外における今後の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	608,898	857,483
受取手形、売掛金及び契約資産	318,977	280,360
商品及び製品	11,735	10,169
仕掛品	31,316	7,821
原材料及び貯蔵品	6,473	5,555
その他	51,507	56,498
貸倒引当金	△256	△256
流動資産合計	1,028,653	1,217,633
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,320	4,970
工具、器具及び備品（純額）	30,076	17,596
リース資産（純額）	21,949	22,405
有形固定資産合計	58,346	44,972
無形固定資産		
ソフトウェア	6,287	6,961
その他	364	364
無形固定資産合計	6,652	7,325
投資その他の資産		
投資有価証券	221,761	202,016
繰延税金資産	10,050	9,050
敷金及び保証金	124,370	124,370
その他	14,454	16,232
貸倒引当金	△11,851	△11,851
投資その他の資産合計	358,786	339,818
固定資産合計	423,785	392,116
資産合計	1,452,438	1,609,749

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当連結会計年度 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	85,149	67,791
契約負債	13,177	25,381
短期借入金	100,000	100,000
リース債務	12,080	16,263
未払法人税等	42,386	28,689
その他	58,867	57,605
流動負債合計	311,661	295,733
固定負債		
リース債務	12,601	9,284
退職給付に係る負債	8,683	9,132
その他	4,224	1,056
固定負債合計	25,508	19,472
負債合計	337,170	315,205
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,478,433	1,478,433
資本剰余金	996,567	996,567
利益剰余金	△1,270,943	△1,097,425
自己株式	△95,031	△95,031
株主資本合計	1,109,025	1,282,544
新株予約権	-	742
非支配株主持分	6,243	11,257
純資産合計	1,115,268	1,294,543
負債純資産合計	1,452,438	1,609,749

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
売上高	2,157,258	2,056,330
売上原価	1,425,684	1,290,957
売上総利益	731,574	765,373
販売費及び一般管理費	512,087	524,271
営業利益	219,486	241,101
営業外収益		
受取利息	441	7
受取配当金	68	2
助成金収入	4,009	480
雑収入	-	208
その他	186	22
営業外収益合計	4,705	720
営業外費用		
支払利息	1,886	1,257
持分法による投資損失	199,921	177,883
その他	9	54
営業外費用合計	201,816	179,196
経常利益	22,375	62,625
特別利益		
持分変動利益	227,959	154,872
投資有価証券売却益	66	-
特別利益合計	228,025	154,872
特別損失		
減損損失	2,942	-
特別損失合計	2,942	-
税金等調整前当期純利益	247,457	217,498
法人税、住民税及び事業税	39,707	37,965
法人税等調整額	2,101	1,000
法人税等合計	41,808	38,965
当期純利益	205,648	178,532
非支配株主に帰属する当期純利益	4,092	5,014
親会社株主に帰属する当期純利益	201,555	173,518

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
当期純利益	205,648	178,532
包括利益	205,648	178,532
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	201,555	173,518
非支配株主に係る包括利益	4,092	5,014

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
当期首残高	1,478,433	996,567	△1,472,499	△95,031	907,469	-	2,150	909,619
当期変動額								
親会社株主に帰属する当期純利益			201,555		201,555			201,555
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						-	4,092	4,092
当期変動額合計	-	-	201,555	-	201,555	-	4,092	205,648
当期末残高	1,478,433	996,567	△1,270,943	△95,031	1,109,025	-	6,243	1,115,268

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
当期首残高	1,478,433	996,567	△1,270,943	△95,031	1,109,025	-	6,243	1,115,268
当期変動額								
親会社株主に帰属する当期純利益			173,518		173,518			173,518
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						742	5,014	5,756
当期変動額合計	-	-	173,518	-	173,518	742	5,014	179,275
当期末残高	1,478,433	996,567	△1,097,425	△95,031	1,282,544	742	11,257	1,294,543

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	247,457	217,498
減価償却費	22,331	26,102
ソフトウェア償却費	3,516	4,018
減損損失	2,942	-
その他の償却額	4,020	3,883
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	246	-
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,514	448
受取利息及び受取配当金	△509	△9
助成金収入	△4,009	△480
支払利息	1,886	1,257
持分変動損益 (△は益)	△227,959	△154,872
投資有価証券売却損益 (△は益)	△66	-
持分法による投資損益 (△は益)	199,921	177,883
売上債権の増減額 (△は増加)	74,291	38,617
棚卸資産の増減額 (△は増加)	5,748	25,978
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	7,055	△4,989
仕入債務の増減額 (△は減少)	△48,076	△17,357
未払金の増減額 (△は減少)	△1,693	1,871
未払法人税等 (外形標準課税) の増減額 (△は減少)	△2,904	△1,285
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△37,604	△1,343
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△3,625	10,415
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	4,224	△3,168
その他	△6,792	△3,265
小計	241,914	321,204
利息及び配当金の受取額	509	9
利息の支払額	△1,838	△1,259
助成金の受取額	4,009	480
法人税等の支払額	△24,502	△50,376
法人税等の還付額	1,112	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	221,205	270,057
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△30,852	△1,018
無形固定資産の取得による支出	△910	△4,691
投資有価証券の売却による収入	5,365	-
長期前払費用の取得による支出	△2,508	△5,660
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,905	△11,370

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△100,000	-
リース債務の返済による支出	△10,624	△10,844
新株予約権の発行による収入	-	742
財務活動によるキャッシュ・フロー	△110,624	△10,102
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	81,675	248,584
現金及び現金同等物の期首残高	527,223	608,898
現金及び現金同等物の期末残高	608,898	857,483

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、意思決定の状況と、提供する製品及びサービスや、事業に必要な能力の同一性の状況から「金融ソリューション事業」「ビジネスソリューション事業」及び「ヘルスケア事業」の3つを報告セグメントとしております。各セグメントに属する事業は以下のとおりです。

「金融ソリューション事業」

金融商品取引システムの開発及び保守が中心です。具体的には証券ディーリングシステム、外国為替証拠金取引システム、取引所外取引システム等です。

「ビジネスソリューション事業」

ITサポート及びグループ経営管理ソリューションシステムの開発及び販売が中心で、一般事業法人向けのエンジニア派遣業も行っています。

「ヘルスケア事業」

機能性食材であるハナビラタケの健康食品及び化粧品等の生産及び販売を行っています。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	金融ソリューシ ョン事業	ビジネスソリュ ーション 事業	ヘルスケア 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,759,196	267,466	130,595	2,157,258	—	2,157,258
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	75	75	△75	—
計	1,759,196	267,466	130,671	2,157,334	△75	2,157,258
セグメント利益又は損失 (△)	597,037	12,221	△84,454	524,805	△305,319	219,486
セグメント資産	1,313,993	81,557	56,887	1,452,438	—	1,452,438
その他の項目						
減価償却費	24,934	476	436	25,847	—	25,847
減損損失	—	—	2,942	2,942	—	2,942
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	40,623	158	—	40,782	—	40,782

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△305,319千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	金融ソリューシ ョン事業	ビジネスソリュ ーション 事業	ヘルスケア 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,646,307	277,635	132,387	2,056,330	—	2,056,330
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	67	67	△67	—
計	1,646,307	277,635	132,454	2,056,397	△67	2,056,330
セグメント利益又は損失 (△)	561,386	22,291	△51,637	532,039	△290,938	241,101
セグメント資産	1,479,637	78,237	51,874	1,609,749	—	1,609,749
その他の項目						
減価償却費	29,700	420	—	30,120	—	30,120
減損損失	—	—	—	—	—	—
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	17,283	136	—	17,419	—	17,419

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△290,938千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり純資産額(円)	154.34	178.49
1株当たり当期純利益金額(円)	28.05	24.15

(注) 1 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	201,555	173,518
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	201,555	173,518
普通株式の期中平均株式数(株)	7,185,600	7,185,600
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	新株予約権1種類 2,474個 (業績達成条件付株式報酬型)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。